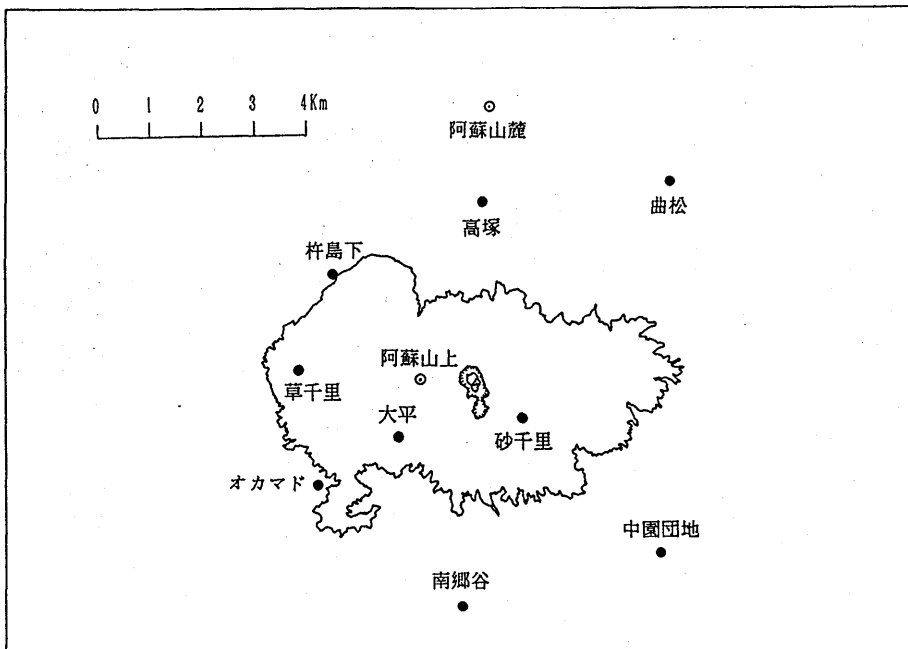


# 阿蘇山における地磁気観測 (XV) \*

## 気象庁地磁気観測所

地磁気観測所(鹿屋)は、1979年3月から阿蘇山及びその周辺で地磁気全磁力連続観測及び全磁力繰り返し観測を行っている。これらの観測のうち、1990年1月までの結果については既に報告している<sup>1)2)</sup>。今回はそれ以後1990年9月までの結果を報告する。

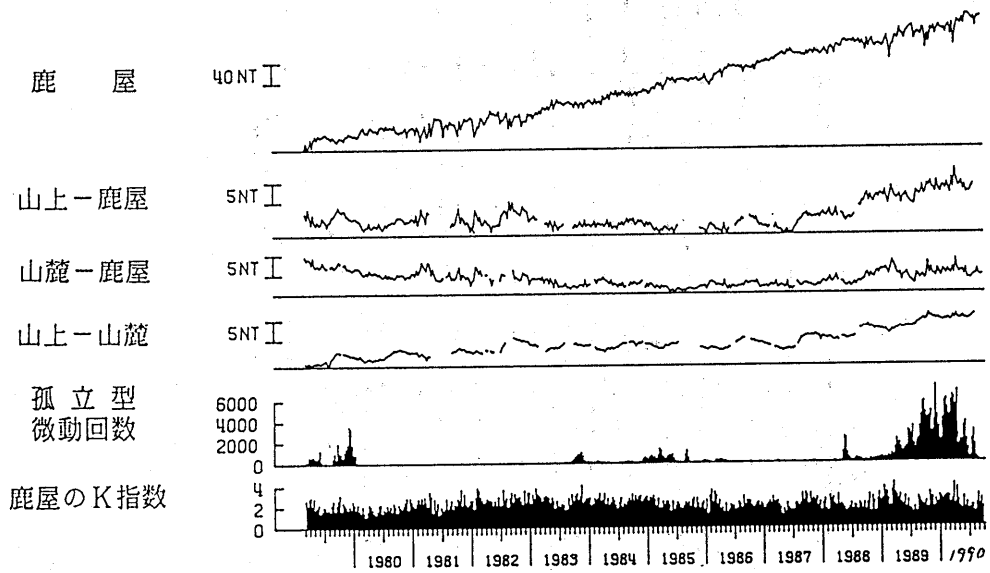
第1図に全磁力連続観測点(阿蘇山上、阿蘇山麓)及び繰り返し観測点の配置図を示す。第2図には、1979年3月から1990年9月までの阿蘇山上、阿蘇山麓、鹿屋の地磁気全磁力夜間値(00~02時)の相互差と孤立型微動回数、鹿屋のK指数を示す。阿蘇山上と山麓の相互差を見ると、阿蘇山上が1987年頃から地磁気全磁力が増加傾向にある。このことは既に報告しているが<sup>2)</sup>、1989年末頃からは、増加傾向は止まっているように見える。



第1図 阿蘇山周辺での地磁気観測点の分布

Fig.1 Locations of observation points (double circle denotes the station where continuous measurement of geomagnetic total force intensity is made).

\* Received 28 Dec., 1990

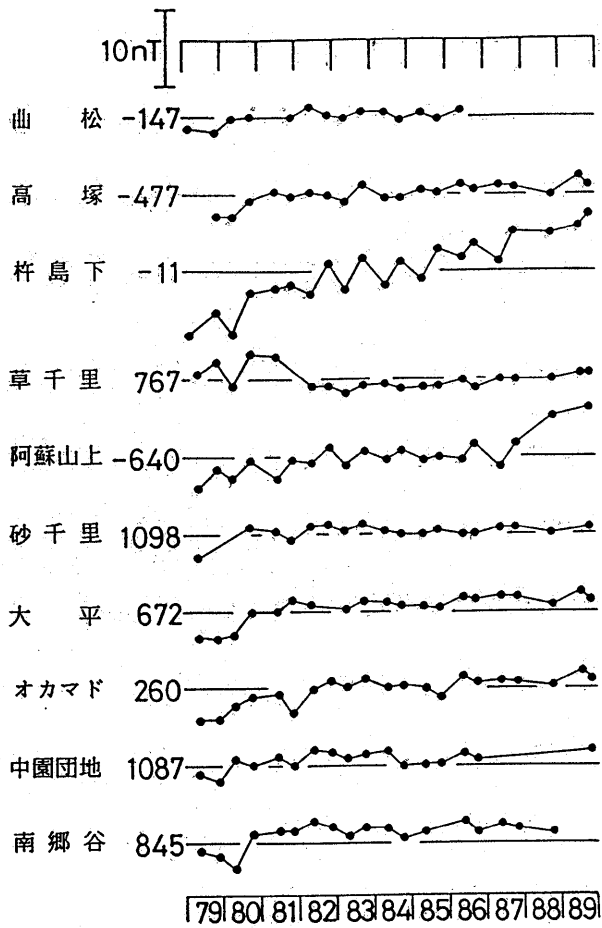


第2図 地磁気全磁力夜間値の相互差（阿蘇山上-鹿屋，阿蘇山麓-鹿屋，阿蘇山上-阿蘇山麓）の旬平均値変化。（1979年3月～1990年9月）

Fig. 2 Secular variation in their ten days means of differences in night time geomagnetic total force intensity between Asosanjo and Kanoya, Asosanroku and Kanoya, Asosanjo and Asosanroku (March 1979-September 1990).

第3図には阿蘇山麓の観測値を基準値とした繰り返し観測点での経年変化の様子を示してあるが、これを見ても、阿蘇山上の増加傾向は止まっているように見える。

阿蘇山上観測点にのみ見られるこれらの変化が、今回の火山活動とどの様に関連しているかは、今後の推移を見ていかないと議論は出来ないが、興味深いものがある。今後も注意深く監視して行くこととした。



第 3 図 阿蘇山麓を基準にした地磁気全磁力の経年変化  
 Fig. 3 Secular variations in geomagnetic total force intensity relative to Asosanroku.

参 考 文 献

- 1) 地磁気観測所(1987): 阿蘇山における地磁気観測(X), 火山噴火予知連絡会会報, **38**, 10-14.
- 2) 地磁気観測所(1990): 阿蘇山における地磁気観測(XIV), 火山噴火予知連絡会会報, **46**, 65-68.